

自然に関する意識の向上

都市の中で過ごしていると、「休暇は自然環境で過ごしたい」と余暇活動のための自然を考えることはあるかもしれませんが。でも、つつい都市の中で全てが完結していると感じ、自然は別モノと捉えている人が多いのではないのでしょうか。あたりまえに、堂々と、まちの一区画に存在する田圃がそんな意識をかえていきます。

新たなコミュニティの創出

例えば、自分が仕事しているオフィスの横に田圃ができたとします。もし、興味があってその田圃活動に参加したとします。すると、今まで交流の無かった周辺のオフィスからも土いじりが好きな方々が集まり、新たな交流がうまれます。お昼休みに運動がてらみんなで田植えを実施する。なんて光景が出現します。

一次産業に関する意識の向上

生きるためには情報やサービスは必要です。でも、本当に必要なもの水や空気、食べ物ではないでしょうか。まちなか田圃は、都市における「アンチテーゼ」と捉えられるかもしれません。でも、これからの生きるを考える上での「大切なヒント」と捉える人もいるかもしれません。このような議論がどんどん巻き起こって意識は変わっていくのです。

都市生態系の再構築

まちなか田圃が、都市の中で分断されている自然環境を繋ぎ、生態系ネットワークを再構築するかもしれません。そうすると、例えば、トンボは田圃を移動の中継地として活用し、サギは何か獲物を探しに飛来して、といった光景が見られるかもしれません。人間を頂点としているいまの都市生態系に新たな変化が生じるのです。

夢アイデア「まちなか田んぼ」

「都市の未利用地を田圃にする」という夢です。
これを実現すると、更に多くの夢が実現します。

地権者の収入確保

土地を提供していただく方はもちろんその土地の地権者です。その地権者がメリットを感じないとこの夢は実行に移りません。そこで、例えば、田圃を利用する人を有料会員制にしたり、そこで出来た米をブランド米として売り込む等、様々な仕組みで地権者に収入が生じるようにします。また、一方で、土地を田圃として活用した場合の税制上の優遇措置もひとつの手かもしれません。

田圃を使った二次的取り組み

都市には都市なりの色々な職種の人や色々なアイデアを持った人がいます。例えば、田圃に付随するカカシやワラなどを使用したアート作品が出現するかもしれません。また、田圃の横には田圃カフェなんてのもできるかもしれません。一方で、都市環境の研究材料として活用する人もいるかもしれません。都市ならではの活用、それは全てみなさんのアイデア次第。

都市問題の解決へ

そう簡単に解決するとは思いませんが、例えば、ヒートアイランド現象への対応。例えば、増加する青空駐車場への対応。長期的な考えとしては、公共交通機関の活用を推進した場合に、現在の都市部の青空駐車場の収入が減ると思うのですが、そうなった時の地権者達への新たな土地の利用形態案にもなると思います。

まちなか田んぼとは？

都市（都心部）の未利用地を田圃にするという夢。この夢が実現すると、自然に関する意識の向上から都市問題の解決など、さらに多くの夢が実現します。

